2024年11月号

Community & Friend

有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 11 月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

久しぶりに東京にやって来た。画像はホテルから品川駅方面を見たところ。昔の駅向こうは何も無かった。いつの間にかこんなにビルが立ち並んでいる。

東京駅に降りて、タクシーで旧岩崎弥太郎邸となっている、六本木にある国際文化会館でセミナーに参加した。以前は『最高秘密会議』と称していたが、今は『実践経済セミナー』となっている。走るタクシーは、東京駅周辺のビル群を抜けて皇居の外堀を時計まわりで、桜田門を右に、正面には国会議事堂が見える懐かしいポイントだった。『Tokyo』という街は、確かに存在感に溢れ、これから 2026 年目指して、世界に冠たる都市に相応しいような様相だった。

何の為に、如何しようとして、遠く離れた何の力も無い国の体制を、ぶっ壊してまで始めた戦争かは知らないが、当の仕掛けをした米国は、収拾する力も既に無い。わずか 2 年半しか時間は経っていないのに。

事の前後でこうも役者が変わっているところを見ると、この騒動自体の目的は、結果から考えると世界の体制の変換劇に、梃子の役割を果たした事になり、企図した者は、その事自体に目的があったのかも知れない。確か以前『許されない戦争は起こらない』と書き、分からない時期に変に勘繰るべきではないとも書いた。そろそろ結論に達して来たのかも知れない、と思う。

この間、世界の体制を模索している勢力が代わったという話しは聞かないので、その流れに沿って動いているとすると、常に念頭にあるのは、クリントン女史の国務長官就任時の演説にあった、地球儀を縦に地政学的に 3 分割する多極型構造に向かってひた走りに走っているということ。そのように改めて思い起こしてみると、歴代米国大統領それぞれの家柄は、決してフリーメーソンで限定されたものではなく、ケネディのように亜流も存在し、同様に志し半ばで凶弾に倒れたリンカーンもそこに入る。そうしてみるとクリントン家はやはり中枢に近い家系という事になり、従ってヒラリーは重要な役割を担って来たのだろう。亭主の方は何の為に大統領になったのか知らないが、辞めるために下世話なスキャンダルをでっち上げたのも、ヒラリー人気を高める為の策だったのか。まあ、どうでも良い事だが、おばちゃんなら乗りやすい話題かな。では、今書いている内容は高尚かというと、そんな事は無く下世話である事には変わりはない。要は興味の対象の違いであるに過ぎない。では、お前は何を如何したいのかと問われれば、人が人を慮れる暮らしの単位を作りたい。それだけ。

ウクライナは、ハンガリーのオルバーン首相がアチコチ立ちまわり、どうやら形の最終に流れを作ったと夏頃に読んだ。

それはプーチンが、７月１日にウクライナの北際ベラルーシに核発射施設を作った、とニュースの解説として読んだから時期を覚えている。流石に政治ってのはこういうものかと思った。そんなの作られれば泣きっ面に蜂みたいなもので、誰でもいいから早くどうにかしてくれとなる。けしかけた米国は、とっくに用済みとばかりに梯子を外している感がある。在庫処分の為というおまけまでついて、見事なものである。ただ、どちらの大統領もあまりいい役どころではなく、気の毒千万だと思う。

プーチンに言うことを聞かせられる人間は最大顧客の習近平だけ。習近平はゼレンスキーに泣きつかれたら『いいよ』と言えばいいだけ。喉に突き刺さった魚の骨を抜いてくれさえすれば、何だってOKするだろう。条件はプーチンの望むことを言えばすべて通る。何もしていない中国が恩を売り、復興事業益は独り占めできる。米国にしてみれば、ウクライナのどの州が如何だとか、何の興味も無く利害関係だって無い。米国は中国に油揚げをさらわれても、文句ひとつ言えないのかも知れない。

今まで散々世界でゴロついて来た世界の警察官が、もう辞めた と言っているのだから、ゴロつくことも、もう辞めるのだろう。そもそも、世界の警察官の担保は、ドル基軸通貨と長期化したベトナム戦争以来、世界ダントツとなった軍事力が背景にあった。軍事力のほどは知らない。しかし、基軸通貨の方は、各国が貿易決済の為に外貨を準備するが、その 80％のシェアが今は58％にまで落ち込んでいて、尚下がり続けている。それは以前にも書いたが、中国はサウジに対して原油輸入決済通貨をドルから元に切り替える話しが、今年 5月の会談だったと思うが、既に決着している。結局このように基軸通貨ドルは別名ペトロダラーと呼ぶように中東の原油決済と米軍の保護とのバーターで成り立っていた。そのように見ると、やはり、もはや、主導権は移っていると思う方が自然だ。つまりドル共栄圏は世界のダウントレンドになり、今伸び盛りの国の殆どが上海機構に加入していて、国家として一番の親分だったイスラエルさえ、此処に名を連ねようとしている。

今月は落ち着く時間がなかなか取れなくて、ひとつ試しに携帯電話でこの月間通信を書いて、メールで自分のパソコンに送って出来ないかと思い、品川・高田馬場間の山手線での移動中に書いた。ショルダーバッグを文字通り右肩からたすき掛けにし、右手で吊革を握りながら左手で打ってみた。やれば出来るものだ。つまり頭のスピードと指の動くスピードが一致させられれば、これでも可能だという事が分かり、少し気が楽になった。どういう訳か、新幹線では寝てしまい、京都から高槻までの在来線は各駅停車に乗って、おかげで前段まで書き上がった。

この国はこれから先、どうなるのだろう。先のサウジアラビアの話しは、既に米軍は撤退している。沖縄の海兵隊も 2026 年には撤退する。一方では、憲法に第３項目を追記して交戦可能にし、内容はよく知らないが三文書改訂という変化をさせて、防衛予算も倍増して 2026 年の準備をしている。

さて、果たして中国と一緒に仲良くやれるのか。やるしかないのだから、また知恵を絞ることになる。確かに遺伝学的には、別な因子だという事は分かっている。分かっているが、互いに行き来して文化交流して来た事は、私たちが受けてきた教育の枠を超えれば、どちらが先とかどうとかではなく、こうして書いていても漢字とひら仮名、アルファベットまで駆使して文章が成立し、出来栄えはともかくも、この国の独自文化はまこと斯様に入り混じってひとつに融合した、なんとも不思議な形成をこの国はしている。

東アフリカ辺りで誕生し、どのようにこの地にみんなが辿り着いて縄文期を形成したのか分からないが、その後の古墳時代まで、また中東から人が多く流入し、混血しながら融合し、混じった結果独自といえば独自の文化、風習、風俗を築いていて、どうも今からの時代は軽んじられながらも、行きつく先は此処かと世界に思わせる領域にいるような気がする。陰陽五行に於ける根本の八百万の神がいて、以前これまた書いたように『口約束だけで充分』という社会が此処にある。

有限会社アルファー　吉田清一郎